

神奈川 新 聞

THE
KANAGAWA

2018年〔平成30年〕

2月28日〔水〕

先勝

照 叨 灯

「紳士の国だと
思っていたのに。
こんなひどいじ

めを（息子に）するなんて」。鎌倉での7
年ほどの講演会。その女性はロンドン
のタクシーの中で運転手に涙ながらに訴
えた思い出を語ってくれた▼夫も義父母
も著名な著述家・作家。鎌倉ゆかりのこ
本人も随筆などを物するとあって小さな
会場はぎっしり。彼女の話では、数人で
たった一人に暴力を振るう。執拗、陰湿。
夫は「やり返せ」ばかりで、頼る人のな
い外国で追い詰められての涙だった▼カ
ナタ発の世界的いじめ反対運動「ピンク
シャツデー」をご存じだろうか。200

7年、ピンクのポロシャツを着て登校し
た少年が「ホモセクシャルだ」といじめ
られた。それを聞いた2人の先輩がピン
クのシャツ50枚を買い「明日みんな着
て登校しよう」とインターネットで呼び
掛けた。翌日学校中がピンクに染まり、
いじめがなくなったという話▼運動はい
まや世界70カ国に広がる。カナタでこの
出来事があった2月の最終水曜日にちな
み、神奈川ではきょう28日を予定する。
横浜YMCAを中心に運動は広がり、知
事や横浜市長も一緒に「いじめストップ」
を呼び掛ける▼シャツに限らない。帽子
でもハンカチでも小物でも、ピンクを身
に着ければいい。あなたもどうですか。

いじめ撲滅の輪「ピンクシャツデー」

「寄り添う日」活動広がる

28日はピンクのシャツや小物を身につけて、いじめ撲滅に向け輪を広げる「ピンクシャツデー」。自分自身の中にある差別や偏見と向き合い、いじめをしている子と受けている子に寄り添う日によようと、県内でも「ピンクシャツデー2018 in 神奈川推進委員会」が組織され、さまざまな活動が展開された。

【石塚淳子】

「50枚のシャツ」カナダ高校生きっかけ

ピンクシャツデーは、2008年のカナダ・バンクーバーの高校での出来事をきっかけに始まった。ピンクのシャツを着て登校した男子生徒がかわられ、いじめにあった。それを知った2人の上級生が50枚のピンクのシャツを買い、友人たちに配布。翌日、賛同した多くの生徒がピンクのシャツや小物を身につけて登校した。学校中がピンクに染まり、いじめは自然になくなったという。

このエピソードが地元メディアに取り上げられてカナダ全土に広がり、バンクーバーのあるブリティッシュコロンビア州の知事が、2月の最終水曜日をピンクシャツデーと宣言した。今では70カ国以上に運動が広がっているという。

県内では、16年度の公立小中高校と特別支援学

校でのいじめの認知件数 最多になった。他の人が1方4375件と過去 尊厳や命を踏みにじる事



来店客にチラシを配ってピンクシャツデーをアピールするスタッフら＝横浜市西区の横浜高島屋で

件も相次いでおり、公益財団法人「横浜YMCA」や認定NPO法人「神奈川県子ども未来ファンド」が中心となって推進委員会をつくり、企業や団体に市民に協力を呼び掛けた。キャンペーンを通じて、国籍、文化、ファッションなど、違ふことを大切な個性として認め合おうと訴えている。

この日は午後1時から、横浜駅東口の新都市プラザで、「いじめストップ!」ワールドアクションと題し、ピンクシャツデーに関する写真などのパネル展示や、いじめをテーマにしたミニ朗読劇、横浜市立領家中学校吹奏楽部の演奏などが行われた。

横浜高島屋（横浜市西区）では、午前10時の開店に合わせ、ピンクのスポンをはいれた青木和宏店長をはじめ、ピンクのTシャツ姿のスタッフらが1階正面口で来店客を出迎えた。青木店長は「バンクーバーでのエピソードに感銘を受け、協力することにした。いじめは学校だけの問題ではない」と話していた。

横 浜



音楽や朗読通じ いじめ撲滅訴え

「ピンクシャツデー」催し

ピンクのシャツを着て、いじめに反対の意思を示すイベント「ピンクシャツデー2018 in 神奈川」が28日、横浜駅東口の新都市プラザ(横浜市西区)で開かれた。色鮮やかなシャツが道行く人たちの目を引き、音楽や朗読を通して、いじめのない社会の実現を訴えた。(仲 里和)

ピンクシャツデーは約10年前、カナダの高校でピンクのシャツを着ていた少年がいじめの対象になったことがきっかけ。それを聞いた上級生2人がピンクのシャツを50枚以上集めて、「明日はみんながこのシャツを着て学校に行こう」と提案。



賛同した生徒らがピンクのシャツや小物を身に付けて登校し、いじめは自然となくなった。このエピソードが世界中に広まり、70カ国

以上でいじめ反対の活動が行われている。

この日のイベントでは、いじめが原因で自死した子どもたちの遺書が朗読された。10年に14歳で自ら命を絶った当時男子中学生の篠原真矢さんは「大丈夫。ある日は日の光となり、ある時は雨となって、あなた達の心の中で生きています。だから哀しまずに、俺の死を糧として、全力で生きて

期のメッセージであれば、足を止めて聞いてくれるだろうと思って企画した。自分の子どもが人を傷つけていないか考えるきっかけになってほしい」と話した。

いじめ問題も取り上げた児童書「ハッピーバースデー」のミニ朗読劇のほか、アコースティックデュオ「N・U・」のライブも行われ、今回のために作曲したテーマソングが披露されると会場は盛り上がった。

いって下さいと家族に遺した。真矢さんの父親で一般社団法人「ここから未来」理事の宏明さんは「子どもたちの最

死セボ原因で自死した子どもを支援する「いじめ撲滅」をテーマにした朗読会。会場は新都市プラザ。

夜には、横浜・みなとみらい21(MM21)地区の大観覧車などがピンクにライトアップ。各地でイベントが開催されているが、神奈川でのイベントの事務局、野北康子さんは「NPOだけに、行政や企業も一緒に実施するのは全国的にも珍しい」とし、「色だけで『私はあなたの味方だ』とさりげなく意思表示できるのがいい」といじめ撲滅をアピールした。

中山駅北口▼青砥▼川和町▼東福寺前▼市が尾駅

2018年(平成30年)2月27日(火曜日)

東 京 新 聞

いじめ防止コンサートや朗読

あす西区で「ピンクシャツデー」

いじめが原因で自殺した小中学生の遺書の朗読などを通していじめ防止を呼び掛ける「ピンクシャツデー2018 in 神奈川」が28日午後1～6時、横浜市西区の新都市プラザで開かれる。

ピンクシャツデーは、07年にカナダから世界中に広まったいじめ反対運動。14年から運動に取り組む財団法人「横浜YMCA」とNPO法人「神奈川子ども未来ファンド」を中心に県内の団体と企業、行政で

推進委員会をつくり、初めて開催する。朗読のほかコンサートなどがある。

入場無料。問い合わせは、神奈川子ども未来ファンド内の推進委＝電045(212)5825＝へ。
(鈴木弘人)

横 浜